

令和 4 年 5 月 22 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H04028

研究課題名（和文）地域に集積した保健医療ビッグデータの統合解析による健康寿命延伸とQOL向上の実現

研究課題名（英文）Health life extension and QOL improvement through integrated analysis of health and medical big data

研究代表者

曽根 博仁（Sone, Hirohito）

新潟大学・医歯学系・教授

研究者番号：30312846

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、健康寿命と生活の質(QOL)に直結する生活習慣病の発症と重症化を防ぐための科学的エビデンスを多数確立することを目的に、地域に蓄積された健診、レセプト、介護保険等の保健医療ビッグデータを結合したデータベースを構築、解析したものである。成果として、健康寿命の三大決定因子、重症糖尿病合併症のリスク因子、食事・運動療法に関わる新エビデンス、高血圧と心血管疾患との詳細な関連、体力と各種疾患との関連、服薬アドヒアランスの意義、学童、若年者の生活習慣と生活習慣病との関連などを解明し得た。地域に眠るビッグデータにより健康長寿に役立ち、予防・治療や対策立案に資する世界的なエビデンスを多数樹立できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

健康寿命延伸は世界の人々の願いである。今回の成果は、例えば若年時のどのような生活習慣（スマホ使用、運動など）や健診結果が、将来、健康寿命を短縮させる重篤疾患に結びつきやすいかなど、社会的関心・重要性が高い問いに対し、科学的根拠に裏付けられた解答を提示したものである。これらの成果は、医療従事者や行政担当者の保健指導、診療や政策立案業務に役立つのみならず、国民一人ひとりが日々の生活ですぐに実行可能な、具体的で信用できる健康情報として、わが国のみならず世界の人々に成果を還元することができた。これにより、地域に眠る保健医療ビッグデータが社会に大きく貢献し得ることが示された。

研究成果の概要（英文）：This study aims to establish a large number of scientific evidences to prevent the incidence and aggravation of lifestyle-related diseases that are directly linked to healthy life expectancy and quality of life. We constructed and analyzed a database that combines healthcare big data accumulated in the community, including health checkups, receipts, and long-term care insurance.

As a result, we were able to establish a number of world-class evidences that are useful for healthy longevity and contribute to prevention, treatment, and planning of countermeasures through the big data sleeping in local communities. These results included the three major determinants of healthy life expectancy, risk factors for severe diabetic complications, new evidence related to diet and exercise therapy, relationship between physical fitness and various diseases, significance of medication adherence, and relationship between lifestyle and lifestyle-related diseases in school children and young adults.

研究分野：代謝内分泌内科学、生活習慣病学、疫学、ビッグデータサイエンス、食事・運動療法

キーワード：保健医療ビッグデータ 生活習慣病 疫学 食事療法 運動療法 糖尿病 健康寿命 科学的エビデンス

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

わが国は、ほぼ世界最長の寿命を達成したが、健康寿命との差は約 10 年もあり、まだ真の健康長寿国とは言えない。健康寿命短縮および QOL 大幅低下、医療費高騰に直結する重症アウトカム(脳卒中、心筋梗塞、腎透析、サルコペニア、フレイルなど)の多くは、青壮年期の生活習慣病(糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満症、メタボリックシンドロームなど)、さらには学童期を含む若年期の生活習慣に起因する。したがって、それら両者間の関連を長期縦断的に解析し、上記重症アウトカムを予防するための、実効性ある科学的エビデンスを確立することは喫緊の課題である。

一方、わが国においては、膨大な保健医療ビッグデータが日々蓄積されており、これらは健康医科学研究においては「宝の山」であるにも関わらず十分活用されていない。その最大の理由は、細分化された多数のデータベースが多部署で別々に管理され、多因子を含む長期縦断解析ができないためである。この現状を打開するため研究代表者らは、各種保健医療ビッグデータを結合し、長期的推移を継続的に追跡できるシステムを構築し、それにより、AI(人工知能)活用も含む縦断解析を実施し、長期的な発症リスク要因やメカニズムを解明してきた。

新潟県は、高齢化が進行し、都会、過疎地、農村、漁村、豪雪地帯、離島などを多くの背景を包含したわが国の縮図とも言え、人口の異動が比較的少なく、各種データベースも比較的一元的に管理されている。そして大学、県とも保健医療ビッグデータ活用の重要性に早くから気づき、全国モデルとするために個人情報、管理主体の違いなどの制度的、法律的問題をクリアするための作業を積み重ねてきた。今回の研究では、この新潟県の良い研究環境を活用することとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域に蓄積された保健医療ビッグデータを活用して、健康寿命と QOL に直結する生活習慣病の発症と重症化を防ぐための科学的エビデンスを多数確立することである。これは申請者を主任研究者とする研究グループが 20 年間一貫して追求し、多くの成果を上げてきたテーマでもあり、その延長線上にある本プロジェクトは、これを深化・発展させるものと位置付けられる。

具体的には、新潟県内を中心とした学校検診、職域検診、特定検診、人間ドックを含む健診と電子カルテとレセプトと介護保険の各データベースをリンクした地域包括保健医療データベースを構築し、解析することにより、地域のみならず国全体、あるいは世界的な医療・保健課題に対し、生活習慣と医療を包括した解答を得る。たとえば、若年時のどのような生活習慣や健診結果などが、健康寿命を短縮させる脳卒中、心筋梗塞、腎透析などの重症アウトカムに結びつき、さらに要介護状態に移行しやすいか(=健康寿命が損なわれやすいか)など、最も関心とニードの高い保健医療上のリサーチクエスションに対し、現代日本の現実社会を反映するビッグデータに基づく科学的根拠を得て、現場診療や対策立案を可能にする。

3. 研究の方法

上記目的を達成するために、小児から後期高齢者までの全世代において、前述の健康寿命を短縮させるイベントのリスク因子、生活習慣改善や健診受診、定期的通院の意義など健康寿命短縮や QOL 低下を予防するための解析を実施した。各種統計手法等の詳細は、紙面の関係で各論文の方法の項に譲るが、使用データベースは下記のとおりである。

【使用データベース】

診療報酬請求データ 診療処置、処方、医療費のデータ
介護保険データ 介護が必要になった理由や要介護度、必要介護内容・費用
企業検診 ストレスチェックの結果も含む、新潟県全域の百万人分を超えるデータ
人間ドック 生活習慣に関わるアンケートのデータも含む
学校保健 学校健診、生活習慣データ、詳細な食事調査、体力テスト

について、できるだけ長期の縦断となるように結合した。

上記の異なるフォーマットのデータベース統合は、新潟大学ビッグデータ・アクティベーションセンターの情報工学専門家が中心となって実施した。構築されたデータベースの解析、吟味、論文作成、発表などは、分担研究者との共同作業により、教授 2 名、准教授 2 名、助教 3 名、助手 1 名、大学院生 5 名からなるチームが主に実施した。

なお、本研究においては解析効率を高めるため、カバーするライフステージ別に下記の 2 つのプロジェクトに分けて実施した。

[プロジェクト 1 学童期 青年期]

地元小学 5 年生・中学 2 年生約 2000 名の詳細な食事内容(食物摂取頻度調査票の BDHQ)、身

体活動（国際身体活動質問票 IPAQ および身体活動計測計）、その他の生活習慣（ストレス、交友関係、スマホ使用状況など）、スポーツテスト結果（持久力や筋力）と、成人式健診の肥満度、血圧、血糖、脂質データおよび生活習慣との関連を解明する。受診状況確認のため、レセプトデータも用いる。

[プロジェクト2 青壮年期 老年期]

職域を中心に職場健診・人間ドックのデータと、電子カルテ・レセプトによる重症疾患発症・受診状況・医療費のデータと、介護の導入や重症度との関連を解明する。

4. 研究成果

従来、上記の目的達成のためには、詳細なベースライン調査と長期フォローアップ体制を完備した数千人以上の大規模前向きコホートを立ち上げる必要があった。しかし、そのためには十年以上の歳月と膨大な費用・労力を要する。しかし我々は、情報工学専門家との共同研究により、異なるフォーマットの保健医療ビッグデータベースを縦断的に個人突合する独自の手法を確立し得た。そして、診療報酬請求データベースにおいて、病名のみならず寿命や健康寿命に悪影響を及ぼす重篤アウトカムを同定する手法の妥当性を証明し得たことも特記すべき成果で、本法普及の礎を築くことができた。これにより、長期の生活習慣の影響等が、これまで例がないほど短期間に解明可能な体制を構築した。

さらに本研究では、臨床医学、看護保健学、栄養学、運動学、医療情報学、医療統計学などの、多くの関連分野の現場経験を有する研究者が学際融合した集学的・職種横断的研究チームを持ち、医学のみならず、栄養、身体活動、心理、介護、医療経済の各側面から、真に国民と社会に役立つ指標について評価することが可能となった。

3年間にわたる本研究の成果として、現場の健康寿命を短縮させる各種疾患の予防・治療に役立つ多くの科学的エビデンスを樹立することができた。これら多数の成果は、ほぼすべて英文原著論文文化後、国際誌に掲載発表されており、さらにそのうち多くは、それに先駆けて国際学会でも発表された。その総数は、英文原著論文 37 編、総説 15 編、著書 16 編、国際学会発表 40 件、招待講演・シンポジウム 24 件（主任研究者分のみ）に達した。これらは、現場指導や診療や健康施策立案にすぐに役立つ科学的エビデンスとして、診療ガイドラインに多数採用されるなど、現場改善に貢献し、一部については、専門誌のみならず、新聞、テレビなどでも報道され、人々の健康リテラシーや生活習慣改善に貢献した。

このように成果は非常に多数であり、紙面の関係からそれらすべての内容を記述することはできないが、これらのうち、重要と思われるものの一部を選択して述べる。

【健康寿命に関わる重要因子の同定】

介護保険と特定健診・診療報酬データベースとの突合により、青壮年期のどのような条件や生活習慣が介護必要状況をもたらすのかも解明できた。その結果、わが国において、健康寿命を短縮させる三大因子は、「糖尿病」、「運動不足」、「痩せ過ぎ」の3つであり、意外なことに、太り過ぎより痩せ過ぎの方が、健康寿命を短縮させることが明らかになった。

また糖尿病の影響の大きさが再認識されたが、たとえ、糖尿病に罹患していても、継続的に運動している者では、糖尿病合併症である心血管疾患のリスクの有意上昇は見られず、運動療法の効果と重要性が明らかになった。このようなエビデンスは、健康寿命延伸の対策そのものに役立つのみならず、QOL 向上や医療費削減にも大きく貢献するはずである。

【重症糖尿病合併症のリスク因子解明】

わが国の透析導入原因疾患の第一位、成人失明原因の第二位を占めるのは、いずれも糖尿病合併症である糖尿病腎症、網膜症である。しかし近年の医療レベル向上により、これら合併症の重症例の絶対発症率は以前よりは低下したため、従来型コホート研究では、重症例イベント数が十分確保できなくなっていた。このため、健康寿命に直結する最重要アウトカムは透析導入や失明であるにも関わらず、従来、それらの代わりに腎症や網膜症そのものの発症を代替エンドポイントとして研究が進められてきた。今回の研究では、そのような代替エンドポイントでなく、健康寿命を終了させる重症合併症そのものをエンドポイントとする解析が可能となり、それらのリスク因子や基準値が多数解明された。

たとえば、現在の多くの生活習慣病関連のガイドラインに示されている心血管リスク因子のコントロール目標（LDL-C < 120mg/dl、HbA1c < 7%、BP mmHg、禁煙）の達成度と、冠動脈疾患リスクとの詳細な関係は、これまでわが国では十分に検討されていなかった。今回の研究でその詳細が明らかになり、糖尿病の有無にかかわらず、上記 ~ のいずれか一つの目標を達成すると、冠動脈疾患リスクは約 1/2 に、二つ達成すると約 1/4 に、三つ達成すると約 1/5 まで低減していた。さらに、たとえ糖尿病患者であっても、上記の目標すべてを達成していれば、非糖尿病患者と比較しても冠動脈疾患リスクの有意な上昇は見られないことも明らかにした。

【糖尿病の食事療法や薬物療法に関わるエビデンス】

生活習慣病の代表格である糖尿病に関しては、近年の日本人 2 型糖尿病患者における食事内容と身体活動量の実態を同一集団において明らかにし、さらにその最近 20 年間の変遷を明らかにした。また、新たな食事内容評価の指標である「エネルギー密度」について、肥満との関連を 2 型糖尿病患者において明らかにできた。一方、高齢糖尿病患者では若年患者とは異なり、塩分摂取量が必ずしも心血管疾患等の合併症と有意に関連しないこと、タンパク摂取不足が死亡率上昇と有意に関連していたこと、ビタミン B6 摂取が網膜症 発症抑制と、などの今後のガイドラインに収載されるべきエビデンスを多数報告した。

【高血圧と心血管疾患との詳細な関連の解明】

日本人を対象にした境界型を含む糖尿病の有無別の、一次、二次予防別の脳卒中リスクのプロファイルの詳細が解明できた。その結果、脳卒中発症に対する耐糖能や血糖コントロールの影響は、脳卒中既往と比較すると非常に小さく、脳卒中既往のある糖尿病患者において、血糖よりも血圧が脳卒中再発に影響していたことを世界で初めて明らかにしたことで、当該分野で最高のインパクトファクター19の米国糖尿病学会誌に掲載された。

【体力の生活習慣病を始めとする各種疾患との関連の解明】

また、低体力が糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病の他、難聴や緑内障など加齢関連感覚器疾患のリスクにもなること、体の柔軟性が低いことが高血圧発症リスクになること、身体活動量と難聴発症との関連など興味深い結果を明らかにし、いずれも高インパクトファクターの国際誌に発表した。

【服薬アドヒアランスの重要性に関するエビデンス】

経口糖尿病薬のアドヒアランスと血糖コントロールや合併症との関連を明らかにし、アドヒアランス低下を見分ける関連因子を解明した。さらに、糖尿病患者において大きな問題になっていた足壊疽について、その高リスク者を、薬物アドヒアランス低下と血糖コントロールとの組み合わせにより同定し得た。

【糖尿病治療の医療経済的効果の解明】

日本人 2 型糖尿病患者を対象とする治療薬の医療経済評価モデルを構築し社会実装した。また、塩分摂取量と心不全リスクとの関連をメタアナリシスにより明らかにし得た。

【糖尿病以外の生活習慣病に関するエビデンス】

糖尿病以外についても、日本人における身体活動量と脂質異常症発症との関連、健診ビッグデータ解析による COVID-19 による自粛生活の健康状態への影響も報告した。

【学童、若年者における生活習慣と肥満や生活習慣病との関連の解明】

肥満の中学生は、標準体重の中学生に比べ、血圧、non-HDL-C、HbA1c の 3 指標を合成したスコアが全対象者の 1 SD 以上の心血管代謝異常リスクを持つ可能性が 3 倍近く有意に上昇していたことを見出し、小児期からの肥満対策の重要性を明らかにした。また、中学生時代の食生活やスマホ使用などの生活習慣が 20 歳時の若年肥満リスクと関連することや、40 歳未満の糖尿病患者はそれ以上と比較して、非糖尿病患者と比較した心筋梗塞リスクが 10 倍以上と極端に上昇することなどを発表した。

成果の総括

これらの成果により例えば、若年時のどのような生活習慣や検診結果が、健康寿命を短縮させる重篤イベントに結びつきやすいかなど、最も社会的関心および必要性の高いリサーチクエストンに対して、科学的根拠に裏付けられた解答を提示し、それに基づく対策に活かすことができた。そして、保健医療のプロフェッショナルが、保健指導・診療・政策立案に活用できるのみならず、国民一人ひとりが日々の生活ですぐに実行可能な、具体的で信用できる健康情報として、わが国のみならず世界の人々に成果を還元することができた。今後は、今回の成果を活かし、さらに保健医療ビッグデータが社会に貢献し得ることの全貌を明らかにし、この分野の研究発展に寄与していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計53件（うち査読付論文 38件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 40件）

1. 著者名 加藤公則、田代稔、鈴木沙織、大塚政人、小林隆司、三木芙久子、春木匠、小松原祐介、藤原和哉、津下一代、赤澤宏平、曾根博仁	4. 巻 35(5)
2. 論文標題 特定保健指導の最適介入法の同定を目指した前向き研究 -新潟方式の試作とそのパイロットスタディによる効果の評価-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間ドック	6. 最初と最後の頁 704-712
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Matsubayashi Y, Yoshida A, Suganami H, Oe M, Sato T, Yaguchi Y, Fujihara K, Yamada T, Tanaka S, Kaku K, Sone H	4. 巻 -
2. 論文標題 Association of estimated plasma volume and weight loss after long-term administration and subsequent discontinuation of the SGLT2 inhibitor, tofogliflozin	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Diabet Obes Metab.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/dom.14387	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kodama S, Horikawa C, Fujihara K, Hatta M, Takeda Y, Nedachi R, Kato K, Watanabe K, Sone H	4. 巻 -
2. 論文標題 Meta-analytic research of the dose-response relationship between salt intake and risk of heart failure	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Hypertens Res.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41440-021-00632-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Abe T, Matsubayashi Y, Muragishi S, Yoshida A, Suganami H, Furusawa K, Fujihara K, Tanaka S, Kaku K, Sone H	4. 巻 -
2. 論文標題 The DPP-4 inhibitor, anagliptin, alters hepatic insulin clearance in relation to the glycemic status in Japanese individuals with type 2 diabetes	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Diabet Investig.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jdi.13543	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujihara K, Yamada-Harada M, Matsubayashi Y, Kitazawa M, Yamamoto M, Yaguchi Y, Seida H, Kodama S, Akazawa K, Sone H	4. 巻 30(5)
2. 論文標題 Accuracy of Japanese Claims Data in Identifying Diabetes-Related Complications	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pharmacoepidemiol Drug Saf.	6. 最初と最後の頁 594-601
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pds.5213	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horikawa C, Aida R, Kamada C, Fujihara K, Tanaka S, Tanaka S, Araki A, Yoshimura Y, Moriya T, Akanuma Y, Sone H, Japan Diabetes Complications Study Group	4. 巻 59(4)
2. 論文標題 Vitamin B6 intake and incidence of diabetic retinopathy in Japanese patients with type 2 diabetes: analysis of data from the Japan Diabetes Complications Study (JDACS)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Eur J Nutr.	6. 最初と最後の頁 1585-1594
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00394-019-02014-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Momma H, Kato K, Sawada S, Gando Y, Kawakami R, Miyachi M, Nagatomi R, Tashiro M, Matsubayashi Y, Kodama S, Iwanaga M, Fujihara K, Sone H	4. 巻 31(4)
2. 論文標題 Physical fitness and dyslipidemia among Japanese: a cohort study from the Niigata Wellness Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Epidemiol.	6. 最初と最後の頁 287-296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20200034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Gando Y, Sawada S.S, Momma H, Kawakami R, Miyachi M, Lee I.M, Blair S.N, Tashiro M, Horikawa C, Matsubayashi Y, Yamada T, Fujihara K, Kato K, Sone H	4. 巻 31(3)
2. 論文標題 Body Flexibility and Incident Hypertension: The Niigata Wellness Study.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scand J Med Sci Sports.	6. 最初と最後の頁 702-709
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/sms.13867	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horikawa C, Aida R, Tanaka S, Kamada C, Tanaka S, Fujihara K, Tanaka S, Yoshimura Y, Koder R, Fujihara K, Kawasaki R, Moriya T, Yamashita H, Ito H, Akanuma Y, Sone H, Araki A	4. 巻 13(2)
2. 論文標題 Sodium Intake and Incidence of Diabetes Complications in Elderly Patients with Type 2 Diabetes-Analysis of Data from the Japanese Elderly Diabetes Intervention Study (J-EDIT)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nutrients.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu13020689	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Harada YM, Fujihara K, Osawa T, Yamamoto M, Kaneko M, Ishizawa M, Matsubayashi Y, Yamada T, Yamanaka N, Seida H, Kodama S, Ogawa W, Sone H	4. 巻 46(4)
2. 論文標題 Association of treatment-achieved HbA1c with incidence of coronary artery disease and severe eye disease in diabetes patients.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Diabetes Metab.	6. 最初と最後の頁 331-334
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.diabet.2018.08.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horikawa C, Hatta M, Yoshizawa M, S, Takeda Y, Takeuchi M, Fujihara K, Kato N, Yokoyama H, Kurihara Y, Iwasaki K, Tanaka S, Maegawa H, Sone H	4. 巻 12(9)
2. 論文標題 Family Support for Medical Nutritional Therapy and Dietary Intake among Japanese with Type 2 Diabetes (JDDM 56)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nutrients.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu12092649	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morikawa Y S, Fujihara K, Takeda Y, Hatta M, Horikawa C, Ishizawa M, Yamamoto M, Shiraishi T, Ishiguro H, Yamada T, Ogawa Y, Sone H	4. 巻 29(4)
2. 論文標題 Weight and cardiometabolic risk among adolescents in Agano city, Japan: NICE EVIDENCE Study-Agano 1	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asia Pac J Clin Nutr.	6. 最初と最後の頁 856-866
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6133/apjcn.202012_29(4).0022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kodama S, Fujihara K, Horikawa C, Yamada H M, Sato T, Yaguchi Y, Yamamoto Y, Kitazawa M, Matsubayashi Y, Yamada T, Watanabe K, Sone H	4. 巻 -
2. 論文標題 Network Meta-Analysis of Drug Therapies for Lowering Uric Acid and Mortality Risk in Patients with Heart Failure	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cardiovasc Drugs Ther.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10557-020-07097-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawakami R, Sawada S, Kato K, Gando Y, Momma H, Oike H, Miyachi M, Lee IM, Blair SN, Tashiro M, Horikawa C, Matsubayashi Y, Yamada T, Fujihara K, Sone H	4. 巻 -
2. 論文標題 A Prospective Cohort Study of Muscular and Performance Fitness and Incident Glaucoma: The Niigata Wellness Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Phys Act Health.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1123/jpah.2019-0660	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujihara K, Matsubayashi Y, Yamada HM, Kitazawa M, Yamamoto M, Kaneko M, Kodama S, Yahiro T, Tsutsui A, Kato K, Sone H	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Combination of diabetes mellitus and lack of habitual physical activity is a risk factor for functional disability in Japanese	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMJ Open Diabetes Res Care.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjdr-2019-000901	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawakami R, Sawada S, Kato K, Gando Y, Momma H, Oike H, Miyachi M, Lee IM, Blair SN, Tashiro M, Horikawa C, Matsubayashi Y, Yamada T, Fujihara K, Sone H	4. 巻 132(2)
2. 論文標題 A Prospective Cohort Study of Muscular and Performance Fitness and Risk of Hearing Loss: The Niigata Wellness Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Am J Med.	6. 最初と最後の頁 235-242
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.amjmed.2020.06.021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokoyama H, Shiraiwa T, Takahara M, Iwamoto M, Kuribayashi N, Nomura T, Yamada M, Sone H, Araki S	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Applications of physical performance measures to routine diabetes care for frailty prevention concept: fundamental data with grip strength, gait speed, timed chair stand speed, standing balance, and knee extension strength	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMJ Open Diabetes Res Care.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjdr-2020-001562	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kodama S, Fujihara K, Horikawa C, Sato T, Iwanaga M, Yamada T, Kato K, Watanabe K, Shimano H, Izumi T, Sone H	4. 巻 7(5)
2. 論文標題 Diabetes mellitus and risk of new onset and recurrent heart failure: a systematic review and meta analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ESC Heart Fail.	6. 最初と最後の頁 2146-2174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ehf2.12782	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yaguchi Y, Fujihara K, Yamada MH, Matsubayashi Y, Kitazawa M, Osawa T, Yamamoto M, Kaneko M, Yamanaka N, Seida H, Kodama S, Sone H	4. 巻 14(6)
2. 論文標題 Skipping breakfast, late-night eating and current smoking are associated with medication adherence in Japanese patients with diabetes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Prim Care Diabetes.	6. 最初と最後の頁 753-759
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pcd.2020.05.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamaoka T, Araki A, Tamura Y, Tanaka S, Fujihara K, Horikawa C, Aida R, Kamada C, Yoshimura Y, Moriya T, Ohashi Y, Akanuma Y, Ito H, Sone H.	4. 巻 12(6)
2. 論文標題 Association between Low Protein Intake and Mortality in Patients with Type 2 Diabetes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nutrients.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/nu12061629	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shibasaki Y, Suwabe T, Katagiri T, Fuse K, Narita M, Sone H, Masuko M	4. 巻 99(3)
2. 論文標題 The Glasgow prognostic score divides high-risk hematopoietic cell transplantation-specific comorbidity index patients into stratified subgroups in allogeneic hematopoietic cell transplantation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Ann Hematol.	6. 最初と最後の頁 671-673
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00277-020-03936-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujihara K, Matsubayashi Y, Yamada MH, Kitazawa M, Yamamoto M, Kaneko M, Kodama S, Yahiro T, Tsutsui A, Kato K, Sone H	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Combination of diabetes mellitus and lack of habitual physical activity is a risk factor for functional disability in Japanese	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMJ Open Diabetes Research & Care.	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjdr-2019-000901	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsubayashi Y, Yoshida A, Suganami H, Osawa T, Furukawa K, Suzuki H, Fujihara K, Tanaka S, Kaku K, Sone H	4. 巻 22(6)
2. 論文標題 Association of increased hepatic insulin clearance and change in serum triglycerides or hydroxybutyrate concentration via the sodium/glucose-cotransporter 2 inhibitor tofogliflozin	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Diabet Obes Metab.	6. 最初と最後の頁 947-956
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/dom.13980	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nojima T, Matsubayashi Y, Yoshida A, Suganami H, Abe T, Ishizawa M, Fujihara K, Tanaka S, Kaku K, Sone H	4. 巻 37(8)
2. 論文標題 Influence of an SGLT2 inhibitor, tofogliflozin, on the resting heart rate in relation to adipose tissue insulin resistance	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Diabet Med	6. 最初と最後の頁 1316-1325
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/dme.14279	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾根博仁	4. 巻 54(4)
2. 論文標題 医学の進歩に貢献	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Medical Tribune	6. 最初と最後の頁 6-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾根博仁	4. 巻 42(3)
2. 論文標題 糖尿病：糖尿病網膜症診療ガイドラインを読み解く	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Medical View Point	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾根博仁	4. 巻 276 (5)
2. 論文標題 糖尿病の予防治療における食事療法と運動療法の統合効果に関する大規模医療データエビデンス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医学のあゆみ別冊	6. 最初と最後の頁 510-515
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢口雄太、曾根博仁	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 心血管イベントおよび細小血管障害の危険因子としての低血糖	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月間糖尿病DIABETES	6. 最初と最後の頁 26-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾根博仁	4. 巻 5033
2. 論文標題 糖尿病の食事療法 : 目標体重と摂取エネルギーについて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊日本医事新報	6. 最初と最後の頁 46-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾根博仁	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 ビッグデータ時代の臨床エビデンスに基づく運動療法	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本臨床運動療法学会誌	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森川咲子、藤原和哉、曾根博仁	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 小児生活習慣病対策における体力の意義 ; 新潟小児生活習慣病研究から得られた知見を中心として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本臨床運動療法学会誌	6. 最初と最後の頁 17-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾根博仁	4. 巻 34(1)
2. 論文標題 糖尿病合併症の心血管イベントに対する血糖降下薬介入研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 糖尿病合併症	6. 最初と最後の頁 122-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾根博仁	4. 巻 5018
2. 論文標題 糖尿病の食事療法 : 基本的な考え方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊日本医事新報	6. 最初と最後の頁 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 曾根博仁	4. 巻 136(6)
2. 論文標題 2型糖尿病の予防	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床栄養(臨時増刊)糖尿病エキスパートブック	6. 最初と最後の頁 743-749
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsubayashi Y, Yoshida A, Suganami H, Osawa T, Furukawa K, Suzuki H, Fujihara K, Tanaka S, Kaku K, Sone H	4. 巻 -
2. 論文標題 Association of increased hepatic insulin clearance and change in serum triglycerides or hydroxybutyrate concentration via the sodium/glucose-cotransporter 2 inhibitor tofogliflozin	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Diabetes Obes Metab	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/dom.13980	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nojima T, Matsubayashi Y, Yoshida A, Suganami H, Abe T, Ishizawa M, Fujihara K, Tanaka S, Kaku K, Sone H	4. 巻 -
2. 論文標題 Influence of an SGLT2 inhibitor, tofogliflozin, on the resting heart rate in relation to adipose tissue insulin resistance	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Diabet Med	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/dme.14279	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fujihara K, Matsubayashi Y, Yamada MH, Kitazawa M, Yamamoto M, Kaneko M, Kodama S, Yahiro T, Tsutsui A, Kato K, Sone H	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Combination of diabetes mellitus and lack of habitual physical activity is a risk factor for functional disability in Japanese	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMJ Open Diabetes Res Care	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjdr-2019-000901	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kitazawa M, Fujihara K, Osawa T, Yamamoto M, Yamada MH, Kaneko M, Matsubayashi Y, Yamada T, Yamanaka N, Seida H, Sone H	4. 巻 -
2. 論文標題 Risk of coronary artery disease according to glucose abnormality status and prior coronary artery disease in Japanese men	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Metabolism	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.metabol.2019.153991	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sone H, Kaneko T, Shiki K, Tachibana Y, Pfarr E, Lee J, Tajima N	4. 巻 22(3)
2. 論文標題 Efficacy and safety of empagliflozin as add-on to insulin in Japanese patients with type 2 diabetes: A randomized, double-blind, placebo-controlled trial	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Diabetes Obes Metab	6. 最初と最後の頁 417-426
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/dom.13909	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshida A, Matsubayashi Y, Nojima T, Suganami H, Abe T, Ishizawa M, Fujihara K, Tanaka S, Kaku K, Sone H	4. 巻 104(9)
2. 論文標題 Attenuation of Weight Loss Through Improved Antilipolytic Effect in Adipose Tissue Via the SGLT2 Inhibitor Tofogliflozin	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Clin Endocrinol Metab	6. 最初と最後の頁 3647-3660
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1210/jc.2018-02254	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fuse K, Uemura S, Tamura S, Suwabe T, Katagiri T, Tanaka T, Ushiki T, Shibasaki Y, Sato N, Yano T, Kuroha T, Hashimoto S, Furukawa T, Narita M, Sone H, Masuko M	4. 巻 8(11)
2. 論文標題 Patient-based prediction algorithm of relapse after allo-HSCT for acute Leukemia and its usefulness in the decision-making process using a machine learning approach	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer Med	6. 最初と最後の頁 5058-5067
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cam4.2401	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto M, Fujihara K, Ishizawa M, Osawa T, Kaneko M, Ishiguro H, Matsubayashi Y, Seida H, Yamanaka N, Tanaka S, Kodama S, Hasebe H, Sone H	4. 巻 60(7)
2. 論文標題 Overt Proteinuria, Moderately Reduced eGFR and Their Combination Are Predictive of Severe Diabetic Retinopathy or Diabetic Macular Edema in Diabetes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Invest Ophthalmol Vis Sci	6. 最初と最後の頁 2685-2689
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1167/iovs.19-26749	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto M, Fujihara K, Ishizawa M, Osawa T, Kaneko M, Ishiguro H, Matsubayashi Y, Seida H, Yamanaka N, Tanaka S, Kodama S, Hasebe H, Sone H	4. 巻 8(8)
2. 論文標題 Pulse Pressure is a Stronger Predictor Than Systolic Blood Pressure for Severe Eye Diseases in Diabetes Mellitus	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Am Heart Assoc	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1161/JAHA.118.010627	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Osawa T, Fujihara K, Harada M, Yamamoto M, Ishizawa M, Suzuki H, Ishiguro H, Matsubayashi Y, Seida H, Yamanaka N, Tanaka S, Shimano H, Kodama S, Sone H	4. 巻 35(3)
2. 論文標題 Higher pulse pressure predicts initiation of dialysis in Japanese patients with diabetes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Diabetes Metab Res Rev	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/dmrr.3120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Harada M, Fujihara K, Osawa T, Yamamoto M, Kaneko M, Kitazawa M, Matsubayashi Y, Yamada T, Yamanaka N, Seida H, Ogawa W, Sone H	4. 巻 104(11)
2. 論文標題 Relationship between Number of Multiple Risk Factors and Coronary Artery Disease Risk With and Without Diabetes Mellitus	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Clin Endocrinol Metab	6. 最初と最後の頁 5084-5090
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1210/jc.2019-00168	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hatta M, Fujihara K, Morikawa SY, Takeda Y, Ishii D, Horikawa C, Kato M, Yokoyama H, Kurihara Y, Iwasaki K, Miyazawa K, Yamazaki K, Tanaka S, Maegawa H, Sone H	4. 巻 10(3)
2. 論文標題 Combined Effects of Energy Intake and Physical Activity on Obesity in Japanese Patients with Type 2 Diabetes (JDDM 50): A Cross-Sectional Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Diabetes Ther	6. 最初と最後の頁 1133-1138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s13300-019-0610-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Momma H, Sawada S, Kato K, Gando Y, Kawakami R, Miyachi M, Nagatomi R, Tashiro M, Ishizawa M, Kodama S, Iwanaga M, Fujihara K, Sone H	4. 巻 29(4)
2. 論文標題 Physical Fitness Tests and Type 2 Diabetes Among Japanese: A Longitudinal Study From the Niigata Wellness Study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Epidemiol	6. 最初と最後の頁 139-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20170280	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Horikawa C, Kamada C, Tanaka S, Tanaka S, Araki A, Ito H, Matsunaga S, Fujihara K, Yoshimura Y, Ohashi Y, Akanuma Y, Sone H, Japan Diabetes Complications Study Group	4. 巻 58(1)
2. 論文標題 Meat intake and incidence of cardiovascular disease in Japanese patients with type 2 diabetes: analysis of the Japan Diabetes Complications Study (JDCS)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Eur J Nutr	6. 最初と最後の頁 281-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00394-017-1592-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾根博仁	4. 巻 47(4)
2. 論文標題 SGLT2阻害薬の大規模臨床研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Diabetes Journal	6. 最初と最後の頁 119-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾根博仁	4. 巻 13(1)
2. 論文標題 医療との共存共栄を目指した機能性食品への期待	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 機能性食品と薬理栄養	6. 最初と最後の頁 5-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本正彦、藤原和哉、曾根博仁	4. 巻 48(5)
2. 論文標題 糖尿病網膜症と大血管合併症のビッグデータ解析によるエビデンス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 内分泌・糖尿病・代謝内科	6. 最初と最後の頁 332-337
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中司朗、相田麗、曾根博仁	4. 巻 30(3)
2. 論文標題 糖尿病リスクエンジンの開発と費用効果分析への応用-Japan Diabetes Complications Study (JDCS)-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Lipid	6. 最初と最後の頁 267-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石黒創、曾根博仁	4. 巻 36(4)
2. 論文標題 糖尿病と運動・身体活動についての疫学・大規模臨床研究エビデンス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 プラクティス	6. 最初と最後の頁 410-415
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計63件 (うち招待講演 26件 / うち国際学会 39件)

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 大規模医療データサイエンスに基づく臨床栄養学-ビッグデータが変える食事栄養療法の未来-
3. 学会等名 第42回日本臨床栄養学会総会・第41回日本臨床栄養協会総会 第18回大連合大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 三条市の食育と介護の現状を踏まえた健康寿命延伸策-新潟大学との共同研究結果が示す未来への提言
3. 学会等名 令和2年度三条市と新潟大学の共同研究事業講演会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 JDCSから大規模医療データサイエンスへ
3. 学会等名 第63回日本糖尿病学会年次学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 糖尿病の予防と治療のための身体活動と運動療法
3. 学会等名 第39回日本臨床運動療法学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 リアルワールド・ビッグデータから見た糖尿病大血管症のリスクと管理
3. 学会等名 第52回日本動脈硬化学会総会・学術集会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamada H. M, Fujihara K, Yaguchi Y, Osawa T, Kitazawa M, Matsubayashi Y, Iwanaga M, Yamada T, Yamanaka N, Seida H, Ogawa W, Sone H
2. 発表標題 Blood Pressure as Predictor of Coronary Artery Disease (CAD)/Cerebrovascular Disease (CVD) According to Glucose Tolerance Status (GTS): Implications for Updated Guidelines
3. 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA)（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamamoto M, Harada S, Okamura T, Fujihara K, Yaguchi Y, Komatsu T, Sato T, Kitazawa M, Yamada H. M, Kaneko M, Osawa T, Matsubayashi Y, Yamada T, Kodama S, Sone H, Takebayashi T
2. 発表標題 Association between Plasma Metabolites in the Urea Cycle and Diabetic Kidney Disease (DKD) in a Japanese Population
3. 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA)（国際学会）
4. 発表年 2020年

1 . 発表者名 Sato T, Fujihara K, Yamada H. M, Yaguchi Y, Kitazawa M, Matsubayashi Y, Iwanaga M, Yamada T, Kato K, Sone H
2 . 発表標題 Difference between Comprehensive Physical Fitness Age and Calendar Age Is a Potent Predictor of Incident Metabolic Syndrome (MetS)
3 . 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Yaguchi Y, Fujihara K, Yamada H. M, Sato T, Kitazawa M, Yamamoto M, Seida H, Yamanaka N, Matsubayashi Y, Sone H
2 . 発表標題 Medication Adherence (MA) Is an Independent Predictor for Glycemic Control Even after Adjustment for Lifestyle Confounders in Japanese Patients with Type 2 Diabetes
3 . 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Osawa T, Fujihara K, Yamada H. M, Sato T, Kitazawa M, Yaguchi Y, Matsubayashi Y, Iwanaga M, Yamanaka N, Seida H, Sone H
2 . 発表標題 Severity of Hypertension (HT) as a Predictor of Initiation of Dialysis among Study Participants with and without Diabetes Mellitus (DM)
3 . 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Matsubayashi Y, Yoshida A, Nojima T, Suganami H, Fujihara K, Kaku K, Sone H
2 . 発表標題 Association of Plasma Volume with Body Weight and BNP after Long-Term Administration and Subsequent Withdrawal of the SGLT2 Inhibitor Tofogliflozin
3 . 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1. 発表者名 Komatsu T, Fujihara K, Yamada H. M, Sato T, Kitazawa M, Yamamoto M, Seida H, Yamanaka N, Matsubayashi Y, Yamada T, Sone H
2. 発表標題 Impact of Body Mass Index (BMI) and Waist Circumference (WC) on Coronary Artery Disease (CAD) in Japanese with and without Diabetes Mellitus (DM)
3. 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kodama S, Sato T, Yamamoto M, Ishiguro H, Iwanaga M, Fujihara K, Yamada T, Kato K, Sone H
2. 発表標題 Predictive Ability of Incident Type 2 Diabetes Mellitus (T2DM) Using Machine Learning Algorithms: A Meta-analysis
3. 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kodama S, Yamada H. M, Yaguchi Y, Kitazawa M, Kaneko M, Matsubayashi Y, Fujihara K, Iwanaga M, Kato K, Sone H
2. 発表標題 Ability for Detecting or Predicting Hypoglycemia with the Aid of Machine Learning Techniques: A Meta-analysis
3. 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kitazawa M, Katagiri T, Suzuki H, Matsunaga S, Yamada H. M, Ikarashi T, Yamamoto M, Furukawa K, Iwanaga M, Hatta M, Fujihara K, Yamada T, Tanaka S, Sone H
2. 発表標題 Randomized Controlled Trial of Ipragliflozin or Sitagliptin Combined with Metformin in Type 2 Diabetes: NISM Study
3. 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ikeda I, Fujihara K, Nedachi R, Morikawa Y. S, Ishiguro H, Yamada H. M, Matsubayashi Y, Yamada T, Sone H
2. 発表標題 Association between Screen Time Including Smartphone Use and Obesity and Its Associated Lifestyles in School Children in Japan
3. 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ikeda I, Fujihara K, Igarashi R, YAMADA H. M, Nedachi R, Hatta M, Kodama S, Mori Y, Matsubayashi Y, Arase Y, Sone H, Yamamoto-Honda R
2. 発表標題 Low Level of and Decrease in Serum Amylase (AMY) Increases the Risk of Type 2 Diabetes Mellitus (T2DM)
3. 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hatta M, Fujihara K, Ikeda I, Takeuchi M, Nedachi R, Morikawa Y. S, Horikawa C, Kato M, Kato N, Maegawa H, Sone H
2. 発表標題 Dietary Patterns Significantly Associated with Obesity in Japanese with Type 2 Diabetes: JDDM
3. 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fujihara K, Yamada H. M, Matsubayashi Y, Kitazawa M, Kaneko M, Yamamoto M, Yaguchi Y, Yahiro T, Kodama S, Kato K, Sone H
2. 発表標題 Combination of Diabetes Mellitus and Lack of Habitual Physical Activity Is a Risk Factor for Functional Disability in Japanese
3. 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fujihara K, Yamada H. M, Matsubayashi Y, Yamamoto M, Iizuka T, Miyamura K, Hasegawa Y, Yamazaki T, Kodama S, Sone H
2. 発表標題 Machine Learning Approach to Decision-Making for Initial Insulin Use in Japanese Patients with Type 2 Diabetes
3. 学会等名 80th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 曽根博仁
2. 発表標題 内科から見た糖尿病網膜症診療ガイドラインの意義
3. 学会等名 第25回日本糖尿病眼学会総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曽根博仁
2. 発表標題 糖尿病患者の心血管イベントに対する薬物介入研究
3. 学会等名 第34回日本糖尿病合併症学会総会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sone H
2. 発表標題 From Cohorts to Real-World Big Data for Prevention of Type 2 Diabetes and Its complications
3. 学会等名 The 1st International Symposium on Integrated Medicine in Endocrinology and Diabetes (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 日本人若年女性におけるやせの実態と課題：エビデンスとこれからの対策
3. 学会等名 第20回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 これからの栄養・生活習慣病学関連の研究開発に求められる視点
3. 学会等名 米及び加工食品の新市場創出に向けたマッチングフォーラム in にいがた2019（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 ビッグデータ時代の臨床エビデンスに基づく運動療法
3. 学会等名 第38回日本臨床運動療法学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 ビッグデータ解析で見えてくる新たな糖尿病臨床エビデンス. 大規模医療データサイエンスは日常診療をどう変えるか？
3. 学会等名 第19回日本糖尿病情報学会年次学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 食事療法指導に役立つ大規模臨床エビデンス
3. 学会等名 第18回栃木県臨床糖尿病セミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 ビッグデータ解析から見た2型糖尿病の動脈硬化合併症
3. 学会等名 第51回動脈硬化学会総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 生活習慣教育・介入の効果
3. 学会等名 第51回動脈硬化学会総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 ビッグデータ解析のエビデンスが示す糖尿病医療の方向性
3. 学会等名 第41回埼玉内分泌代謝研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 新潟県における糖尿病腎症重症化予防プログラムの展開
3. 学会等名 新潟県糖尿病性腎症重症化予防対策担当者研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sone H
2. 発表標題 From Patient Cohorts to Real-World Big Data: Seeking the Asian phenotype of type 2 diabetes
3. 学会等名 The 11th Asian Association for the Study of Diabetes (AASD)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 医療・保健ビッグデータを活用した糖尿病とその合併症予防のエビデンス
3. 学会等名 第62回日本糖尿病学会年次学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 機能的食品と栄養学の将来を考える
3. 学会等名 第73回日本栄養・食糧学会総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 糖尿病患者における運動療法の有効性に関する大規模臨床エビデンス
3. 学会等名 第92回日本内分泌学会総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 糖尿病の発症・重症化予防のための生活習慣療法エビデンス
3. 学会等名 第20回埼玉心臓リハビリテーションセミナー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 糖尿病の疫学・大規模臨床研究-過去と未来-
3. 学会等名 第53回日本糖尿病学会「糖尿病学の進歩」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 医療ビッグデータと大規模臨床データを用いた糖尿病研究 進め方の重要点とコツ
3. 学会等名 第53回日本糖尿病学会「糖尿病学の進歩」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 全国をリードする「食育と健康長寿の街」への挑戦. 新潟県NGTプロジェクトとの連動も含めて
3. 学会等名 三条市役所職員研修会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根博仁
2. 発表標題 新潟のビッグデータを活用した健康長寿日本一への挑戦シンポジウム
3. 学会等名 新潟県「にいがた新世代ヘルスケア情報基盤」シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawakami R, Sawada SS, Kato K, Gando Y, Momma H, Oike H, Miyachi M, Lee IM, Blair SN, Tashiro M, Sone H
2. 発表標題 A Prospective Cohort Study Of Physical Fitness And Incident Hearing Loss: The Niigata Wellness Study
3. 学会等名 American College of Sports Medicine (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Arata N, Kawasaki M, Waguri M, Iimura Y, Sugiyama T, Yasuhi I, Sone H, Kikuchi T, Takimoto H, Yasuda K, Ogawa Y, Hiramatsu Y
2. 発表標題 Intensive non-pharmacological intervention for preventing type 2 diabetes in pregnant women with gestational diabetes
3. 学会等名 The International Diabetes Federation (IDF) Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Fujihara K, Matsubayashi Y, Harada M, Osawa T, Yamamoto M, Kitazawa M, Kaneko M, Seida H, Yamanaka N, Kodama S, Sone H
2 . 発表標題 Impact of Prior Coronary Artery Disease (CAD)/Cerebrovascular Disease (CVD) and Diabetes Mellitus (DM) on Incident CAD/CVD in Japanese
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Harada M, Fujihara K, Yamamoto M, Kaneko M, Kitazawa M, Suzuki H, Matsubayashi Y, Yamada T, Yamanaka N, Seida H, Ogawa W, Sone H
2 . 発表標題 Associations of Blood Pressure (BP) with Incidence of Coronary Artery Disease (CAD)/Cerebrovascular Disease (CVD) According to Glucose Tolerance Status (GTS)
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yaguchi Y, Fujihara K, Osawa T, Yamamoto M, Kaneko M, Kitazawa M, Harada M, Matsubayashi Y, Yamada T, Yamanaka N, Seida H, Sone H
2 . 発表標題 Factors Significantly Associated with Adherence to Diabetes Medications: Findings from a Large Japanese Claims Database
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yamamoto M, Fujihara K, Osawa T, Harada M, Ishizawa M, Suzuki H, Ishiguro H, Seida H, Yamanaka N, Matsubayashi Y, Sone H
2 . 発表標題 Lower Hematocrit Is Predictive of Treatment-Required Eye Diseases in Japanese Patients with Diabetes Mellitus
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kitazawa M, Fujihara K, Osawa T, Yamamoto M, Harada M, Kaneko M, Matsubayashi Y, Yamada T, Yamanaka N, Seida H, Ogawa W, Sone H
2 . 発表標題 Predictors and Their Impact on Coronary Artery Disease (CAD) According to Glucose Tolerance Status (GTS) and Prior CAD: Historical Cohort Study in Japan
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Morikawa Y S, Fujihara K, Ishii D, Nedachi R, Ishizawa M, Ishiguro H, Matsubayashi Y, Yamada T, Kodama S, Sone H
2 . 発表標題 Weight Status and Cardiometabolic Risk Factors among Adolescents in Japan
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Morikawa Y S, Fujihara K, Hatta M, Takeda Y, Ishii D, Yachida J, Horikawa C, Kato M, Maegawa H, Sone H
2 . 発表標題 Personality, Self-Management Behaviors, and Glycemic Control among Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus (T2DM)
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hatta M, Fujihara K, Matsubayashi Y, Takeda Y, Nedachi R, Ishii D, Horikawa C, Kato M, Maegawa H, Sone H, JDDM Study Group
2 . 発表標題 Association of Dietary Intake of Phosphorus with Obesity in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus (T2DM)
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hatta M, Fujihara K, Takeda Y, Nedachi R, Ishii D, Morikawa Y S, Horikawa C, Kato M, Maegawa H, Sone H, JDDM Study Group
2 . 発表標題 Significant Association of Food Group Intake with Obesity among Patients with Type 2 Diabetes Mellitus in Japan
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Horikawa C, Takeda Y, Hatta M, Ishii D, Morikawa Y S, Fujihara K, Maegawa H, Sone H
2 . 発表標題 Family Support for Medical Nutritional Therapy and Dietary Intake among Japanese Patients with Type 2 Diabetes
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 akeda Y, Fujihara K, Hatta M, Morikawa Y. S, Horikawa C, Ishii D, Nedachi R, Maegawa H, Sone H, JDDM Study Group
2 . 発表標題 Low Dietary Energy Density (DED) Diet Is Associated with Favorable Dietary Pattern in Japanese Patients with Type 2 Diabetes (T2DM)
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kaneko M, Fujihara K, Osawa T, Harada M, Kitazawa M, Matsubayashi Y, Yamada T, Yamanaka N, Seida H, Sone H
2 . 発表標題 Poor Adherence to Medication and HbA1c Level Predict Risk of Amputation in Patients with Diabetes Mellitus - Historical Cohort Study Using a Nationwide Claims Database
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Nedachi R, Fujihara K, Hatta M, Matsubayashi Y, Takeda Y, Ishii D, Horikawa C, Kato N, Maezawa H, Sone H, JDDM Group
2 . 発表標題 Association of Zinc Intake with Obesity in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus (T2DM)
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Matsubayashi Y, Yoshida A, Nojima T, Suganami H, Fujihara K, Kaku K, Sone H
2 . 発表標題 Adipose Tissue Insulin Resistance Predicts Ketosis via an SGLT2 Inhibitor
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yoshida A, Matsubayashi Y, Nojima T, Suganami H, Kaku K, Sone H
2 . 発表標題 Enhanced Response in Serum Ketone Level in Men Compared with Women by Administration of SGLT2 Inhibitor
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Nojima T, Matsubayashi Y, Yoshida A, Suganami H, Kaku K, Sone H
2 . 発表標題 Baseline Lactate Level Is a Useful Predictor for Weight Loss after Long-Term SGLT2 Inhibitor Treatment
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Yanagisawa D, Fujihara K, Osawa T, Kitazawa M, Yamamoto M, Matsubayashi Y, Yamanaka N, Kodama S, Sone H
2 . 発表標題 Impact of Prior Cerebrovascular Disease (CVD) and Glucose Tolerance Status on Incident CVD in Japanese
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Hatta M, Fujihara K, Matsubayashi Y, Takeda Y, Nedachi R, Ishii D, Horikawa C, Kato M, Maegawa H, Sone H, JDDM Study Group
2 . 発表標題 Intake of Fish and Related Nutrients in Association with Obesity in Japanese Patients with Type 2 Diabetes (T2D)
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Ishii D, Fujihara K, Nedachi R, Harada M, Matsubayashi Y, Saito K, Kodama S, Yamamoto H R, Arase Y, Sone H
2 . 発表標題 Serum Amylase (AMY) Level and Its Chronological Change as a Predictor of Incident Type 2 Diabetes Mellitus (T2DM)
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Horikawa C, Aida R, Tanaka S, Tanaka S, Kamada C, Yoshimura Y, Araki A, Moriya T, Katayama S, Akanuma Y, Sone H
2 . 発表標題 Higher Calcium Intake Is Associated with Lower Incidence of Diabetic Nephropathy in Japanese Patients with Type 2 Diabetes
3 . 学会等名 79th American Diabetes Association Scientific Sessions (ADA) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 細井雅之、曾根博仁	4. 発行年 2021年
2. 出版社 MCメディカ出版	5. 総ページ数 272
3. 書名 糖尿病ケア 2021年春季増刊号 最高で最強の糖尿病患者説明シート57	

1. 著者名 曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 MCメディカ出版	5. 総ページ数 205
3. 書名 糖尿病薬物療法指導力アップ講座	

1. 著者名 谷内洋子、金子正儀、鈴木裕美、石澤正博、岩永みどり、曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 152
3. 書名 糖尿病の最新食事療法のなぜに答える 基礎編	

1. 著者名 園田勝、曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 231
3. 書名 栄養科学イラストレイテッド演習版 解剖生理学ノート 人体の構造と機能 第3版	

1. 著者名 志村二三夫, 岡純, 山田和彦, 曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 256
3. 書名 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能 第3版	

1. 著者名 寺内康夫, 岩永みどり, 曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 316
3. 書名 血糖管理のための糖尿病治療薬活用マニュアル	

1. 著者名 本田佳子, 土江節子, 曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 312
3. 書名 栄養学イラストレイテッド 臨床栄養学(改訂第2版) 疾患別編	

1. 著者名 本田佳子, 土江節子, 曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 184
3. 書名 栄養学イラストレイテッド 臨床栄養学(改訂第2版) 基礎編	

1. 著者名 本田佳子、土江節子、曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 309
3. 書名 栄養学イラストレイテッド 臨床栄養学（改訂第2版）疾患別編	

1. 著者名 本田佳子、土江節子、曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 177
3. 書名 栄養学イラストレイテッド 臨床栄養学（改訂第2版）基礎編	

1. 著者名 志村 二三夫、岡 純、山田 和彦、曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 231
3. 書名 解剖生理学ノート 人体の構造と機能 第3版	

1. 著者名 志村 二三夫、岡 純、山田和彦、曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 羊土社	5. 総ページ数 239
3. 書名 解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第2版	

1. 著者名 寺内康夫、白川純、曾根博仁	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 316
3. 書名 血糖管理のための糖尿病治療薬活用マニュアル	

1. 著者名 脊山洋右、島野仁、曾根博仁	4. 発行年 2019年
2. 出版社 メヂカルフレンド社	5. 総ページ数 278
3. 書名 人体の構造と機能 栄養生化学	

1. 著者名 日本医師会	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 374
3. 書名 動脈硬化診療のすべて	

1. 著者名 野田光彦、曾根博仁	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 180
3. 書名 糖尿病の療養指導Q&A vol.2	

1. 著者名 綿田裕孝、松田昌文、池上博司、曾根博仁	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医薬ジャーナル社	5. 総ページ数 295
3. 書名 糖尿病治療のニューパラダイム 第4巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

新潟大学医学部・大学院医歯学総合研究科 血液・内分泌・代謝内科学分野 http://www.med.niigata-u.ac.jp/emh/index.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 公則 (Kato Kiminori) (00303165)	新潟大学・医歯学総合研究科・特任教授 (13101)	
研究分担者	山崎 達也 (Yamazaki Tatsuya) (00358889)	新潟大学・自然科学系・教授 (13101)	
研究分担者	堀川 千嘉 (Horikawa Chika) (00734857)	新潟県立大学・人間生活学部・講師 (23102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	赤澤 宏平 (Akazawa Kohei) (10175771)	新潟大学・医歯学総合病院・教授 (13101)	
研究分担者	藤原 和哉 (Fujihara Kazuya) (10779341)	新潟大学・医歯学総合研究科・特任准教授 (13101)	
研究分担者	谷内 洋子 (Yachi Yoko) (30642821)	千葉県立保健医療大学・健康科学部・教授 (22501)	
研究分担者	児玉 暁 (Kodama Satoru) (50638781)	新潟大学・医歯学総合研究科・特任准教授 (13101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関